

グローカル政経総研レポート

菅新内閣発足、主要新聞に見る期待と評価

さとうゆきのり
佐藤幸徳

まえがき

長年続いた安倍政権に代わって第99代内閣総理大臣に菅義偉が指名されて（令和2年9月16日）から2週間ほどになる。新内閣に対する各種アンケートによても好感度は歴代3位と出だしの評判は良いようだ。菅氏の経歴もユニークであるし、筆者にとって同じ故郷を有する者にとって是非国のために、地方のために頑張って欲しいと思う。

組閣後、これまで、さっそくデジタル庁の新設に向けて関連法律化の準備室設立、秋田も設置対象地になったイージスアショアの見直しに着手、各国首脳との電話会談などなど滑り出しは順調のように見える。

ここでは、この新首相の所信、並びに当日の新内閣組閣を終えた、翌17日の主要全国紙（読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞（日経新聞）・産経新聞）及び出身地である秋田魁新報の朝刊から見た菅新内閣発足、主要新聞に見る期待と評価を比較してみた。なお、比較対象としては、主として1面見出し、社説とし、他に特徴的な内容をピックアップした。

そして、新内閣の今後の活動をフォローアップする際の参考に資したい。

指名後の菅首相所信表明

指名後行われた菅総理の会見では自身の長期に渡る官房長官の実績も踏まえ、大要次のような所信を述べている。

取り組むべき最優先課題として、新型コロナウイルス対策、経済の再生とした。また、金融緩和、財政投資、成長戦略を三本柱とするアベノミクスを継承するとし、政策の目玉としてデジタル庁を新設するとした。また、ポストコロナ時代にあっても、引き続き環境対策、脱炭素化社会の実現、エネルギーの安定供給、地方を活性化するような政策、少子化対策、若い人たちが将来も安心できる全世代型社会保障制度を構築するとした。

また、また、外交及び安全保障の分野については、日米同盟を基軸とした政策を展開し、自由で開かれたインド太平洋を戦略的に推進するとともに、中国、ロシアを含む近隣諸国との安定的な関係を築いていきたい、そして、戦後外交の総決算を目指し、特に拉致問題を解決したいとした。

世の中には国民の感覚から大きくかけ離れた数多くの当たり前でないことが

残っている、と考え、現場の声に耳を傾け、何が当たり前なのか、そこをしっかりと見極めた上で、省庁の縦割りを排し大胆に実行する、というのが自身の信念であるとした。

そして目指す社会像、それは、自助・共助・公助、そして絆であり、国民から信頼される政府を目指していきたい、そのためには行政の縦割り、既得権益、そして悪しき前例主義、こうしたものを持ち破って、規制改革を全力で進め、国民のためになる、ために働く内閣をつくる、国民のために働く内閣、そのことによって、国民の皆さんのお期待にお応えをしていきたい、とした。

主要新聞に見る期待と評価、各紙の比較

(1) 1面

読売新聞（以下、読売）は行政の縦割り打破、コロナ・経済対策、改革に突破力と説得力、朝日新聞（以下、朝日）は派閥配慮の安全運転、桜を見る会中止表明、毎日新聞（以下、毎日）は菅ビジョンをききたい、日経新聞（以下、日経）は規制改革へ縦割り打破、コロナ対応・経済両立、産経新聞（以下、産経）は安定布陣、安倍路線継承し前進、対コロナ・行政デジタル化、外交左右する国内基盤の強さ、秋田魁新報（以下、秋田魁）は秋田県出身初、全ての地方元気に、この国の未来を語れ。

(2) 社説

読売は経済復活へ困難な課題に挑め、改革の全体像と手順を明確に、大局的な政権構想を示していない、朝日は安倍政権の焼き直しはご免だ、暫定色払拭に確實に結果を、見えぬ国家ビジョン、解散よりコロナ対応、毎日はまず強引な手法の転換を、緊急避難的な内閣、コロナ対策後手の内閣責任の一人、国民の声に耳を傾け官僚の総合力を、解散前に論争を、日経は迅速と丁寧を両立させた政治主導を、産経はNASA（二階幹事長、安倍前総理、菅総理自身、麻生財務大臣）政権、国民に信を問え、対中政策は腹くくり国益第一で、秋田魁は地方再生力強く前進を。

(3) トピックス記事

読売は経済再生、安定性を重視した布陣、省庁改革 菅カラー、地方に活力期待、朝日は継承まず守り、行革・デジタル独自色腐心、負の遺産の説明責任、五輪開催難しい判断、毎日は派閥均衡実務優先、仕事師内閣いかに、コロナ 経済再生急務、外交手腕未知数、五輪へ問われる安全、手堅く精通分野に配置、抵抗する官僚は更迭、国民目線で対策を、日経は防衛、敵基地攻撃など課題、外交、日米同盟が基軸、デジタル化全閣僚で推進、国・地方・組織の壁（の打破）、暮らし守る政策、福島の課題 向き合って、産経は組閣 選挙見据え、コロナ・経済はや正念場、柔軟外交継承に危うさも、対トランプ氏 ずぶとくあれ、ミサイ

ル防衛急務、全世代型社保改革 難しい判断、不妊治療 保険適用に期待、秋田魁は規制改革大胆に、コロナ後へ改革不可欠、地方、弱者に目を向けて

あとがき

以上主要紙の1面、社説、トピックスいざれを見ても新内閣に大きな期待を感ずる。是非、新内閣においては期待に沿るように力を尽くし、自身の所信を貫徹して欲しいと思う。

なお、主要紙の多くは菅首相の考える国家ビジョンを期待している。自助、共助、控除、絆は国家像というよりは手段のように思える。来るべき国会開催にあたっての所信表明演説に期待したい。

なお、本内閣に限らず、歴代内閣が目指しなかなか実現できなかった課題、例えばデジタル化、行政改革などは、その原因をP D C A（計画、実行、チェック、アクション）的に分析し、マイルストン（工程表）にして国民に分かりやすいように見せて欲しい。

以上